

ケース
②

はやし きず
林のなかでまるい傷がある

したい はっけん
死体を発見

かいぼう じゅうよう
～解剖はとても重要です②～



郊外にあるX市は、自然が多く残っています。山が近くにあるため、ときどき野生動物を見かけることがあります。最近では、野生動物が畑を荒らすので、少し問題になっています。

あるとき、Bさんが山のふもと
の林道を散歩していると、草むら
に人が倒れていました。周辺には

血液らしきものも残っています。Bさんは急いで警察に通報しました。警察の捜査の結果、この女性は近所に住む80歳のCさんでした。持ち物から判断して、Cさんは林でキノコを採取していたようでした。

警察での検視の結果、頭部や上腕部に等間隔で並ぶ円形の傷跡がみつけられました。さらにくわしい死因を特定するために、ドクターいわせの法医学教室に運ばれました。

死体の状態や、傷あとをみると、畑を荒らす乱暴なイノシシが林にひそんでいて、牙が刺さったのかな？



林に殺人鬼がひそんでいて、アイスピックで刺したのかもしれないよ……。



簡単に判断してはいけませんよ。死体は、法医学教室でしっかりと解剖して死因を究明します。



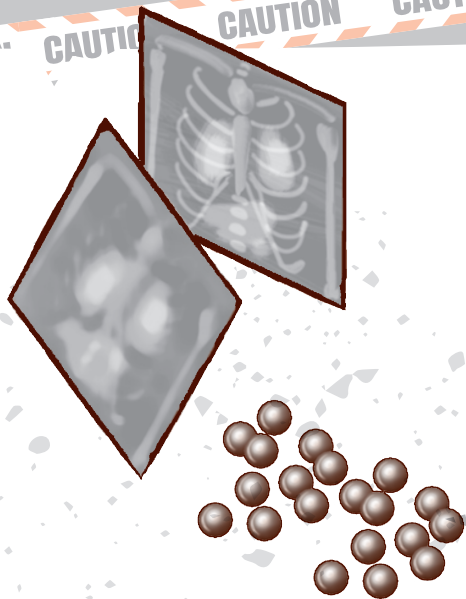
かい せつ
解 説

▶ 2-1 傷だけでは死因を特定できない！

ドクターいわせは、まずは死体の表面を調べました。たしかに頭部や上腕部にまるい傷あとがありますが、それだけでは、イノシシの牙が刺さったのか、または鋭利な凶器（アイスピックなど）で刺されたのかはわかりません。しかも、傷の深さもわからないので、この時点では死因を「不明」にするしかありませんでした。

▶ 2-2 CT検査の画像に異常を発見!

次にドクターいわせは、死体のCT検査を行いました。すると、CT画像では死体の頭や胸の一部が白く輝いたように写っていました。第4章で説明したように、CT検査で使われるX線は、水分が少ないものは通過しにくいので、その部分は画像で白っぽくなります。この画像で輝くように白い部分には、金属のようにX線がまったく通過しないものがあると考えられます。



▶ 2-3 最後はやはり解剖

CT検査の結果、身体の中かに金属片が入っていることが推測されました。これまでのドクターいわせの経験から、この死体は、散弾銃で撃たれた可能性が浮上しました。そして、解剖を行うと、予想どおり身体の中かから散弾銃の弾がみつかりました。

▶ 2-4 誤射だった

ドクターいわせからの報告を受けて、警察は周辺での聞き込み調査をさらに行いました。その結果、当日、サルの駆除のために散弾銃をもって見回りをしていた人物Dがいることが判明しました。警察がDから話を聞くと、「林のなかで、サルを撃ったと思ったが、人が倒れていたんで、こわくなって逃げた」と語りました。



まとめ

今回のように、原因が散弾銃であっても、イノシシの牙が刺さったあとのように見えたりすることがあります。原因がまったくちがっていても、似たような見た目になることはよくあるのです。死因をしっかりと特定するためにも、解剖をして身体の内部をよく調べることが重要です。



とても悲しい事故だったんですね。



いわせ先生がCT検査と解剖で身体の中かの金属を見つけないければ、死因が不明のままだったね……。



法医学では、さまざまな情報から、「根拠」をもって、死因を特定することが重要です。傷あとだけで、「イノシシの牙に刺された」などと判断してしまうと、今回のような事故を見逃がすことになってしまいます。また、ほんとうの死因を見逃がし、まちがった死因を採用してしまうことは、亡くなった人の尊厳を損なうことになってしまいます。

